


2017（平成29）年度 北陸大学特別研究助成金【 奨励・若手女性 】 成果報告書

北 陸 大 学  
学 長 殿

平成 30 年 5 月 1 日

代表者	所属	国際コミュニケーション	職位	講師	氏名	伊伏 裕子 
-----	----	-------------	----	----	----	---

研究課題名	欧文資料による近代中国語文法研究
交付額	500,000 円

## 研究成果の概要

17、18世紀の西洋人による中国語文法書において「量詞」は「数詞」のカテゴリーで説明されていたが、19世紀に入ると次第に「名詞」のカテゴリーで扱われるようになり、更には独立した一つの品詞として扱われるようになる。このような変化は西洋人の「量詞」に対する認識の変化を示すものであった。西洋人は初め「量詞」に対して、事物を数える時に用いる小辞：「助数詞」であるという認識を持っていたが、後に名詞について事物を分類する「類別詞」である、という認識を持つようになった。このように当時の西洋人は「量詞」に対して的確な考察を行っているが、その他に「不定冠詞的用法」や「量詞の個体化機能（抽象的な概念を個体化させる機能）」についても言及されていることが分かった。

## 研究目的

研究開始時の背景・着想に至った経緯などを含めて目的を記入して下さい。

本研究は 17 世紀から 20 世紀初頭にかけて、欧米の来華宣教師や中国学者、外交官らによって行なわれた中国語の学習と研究に注目し、彼らの書き残した数多くの中国語学習教材と文法書を調査・整理し、近代西洋人による中国語研究を明らかにすることを目的としている。近代西洋人による中国語の学習と研究は、西洋言語と中国語が比較対照された過程であり、文法学(Grammar)の知識が中国に伝播する過程でもある。(1)近代西洋人によってもたらされた文法学の知識はどのように中国語に用いられ、中国語が分析されたのか。(2)近代西洋人が捉えた中国語の特徴とは何か。本研究を通して以上二つのテーマの考察を試みる。近代西洋人による中国語研究を、「馬氏文通」(1898)に始まる中国人による新しい中国語文法研究の前段階と位置づけ、中国語文法研究史の一端を明らかにしたい。

東アジアの国々は近代化の過程に於いて、西洋の知識を学び、変化した。言語研究も例外ではない。「国語文法」を作るために言語学の知識が西洋から輸入された。「馬氏文通」(1898)に始まる新しい中国語研究では、中国人が外国語を学び、欧米や日本に留学し、新しい知識を得て、これまでの伝統的なものではない新しい国語研究が始まった。それ以前の西洋人による中国語研究は、これまで左程注目されなかったが、本研究を通して近代西洋人による中国語研究の重要性を提唱し、現代の中国語文法研究に有用な資料を提供する。

これまでの研究の過程で、近代西洋人による中国語研究が、宣教師の宗派を超えて受け継がれ、19 世紀の中国語文法書にはそれまでに書かれた文法書の内容が引用され、批判される部分が存在することに気がついた。また、彼らの蓄積された研究結果には、19世紀以降中国人による新しい文法研究において非常に時間を要した問題にも言及されていることを発見した。このように、近代西洋人の中国語文法研究にはすでに中国語の特徴を的確に捉えた研究結果が見られる。このような研究結果を発掘することにより、現代中国語研究においてまだ解決されていない問題やテーマに有用な資料を提供できると考える。

## 研究の方法

早期欧文資料に見られる中国語の量詞の機能について、伊伏2012（早期西方人對漢語「量詞」的認識及其轉變—從 Numeral 到 Classifier）で整理した内容を見直し、数量詞から分類詞と認識される過程において言及されている量詞の他の機能について整理する。資料として用いたのは主に19世紀に西洋人によって編纂された中国語文法書と教科書である。

Joshua Marshmann 1814 《中國言法》  
 Robert Morrison 1815 《通用漢言之法》  
 Abel Remusat 1822 《漢文啓蒙》  
 Philo-Sinensis(Gützlaff) 1842, Notices on Chinese Grammar  
 Bazin, 1856, Grammaire Mandarine  
 Joseph Edkins, 1857, Mandarin Dialect  
 James Summers, 1863, A Hand Book of the Chinese Language  
 W.Lobscheid, 1864, Grammar of the Chinese Language  
 Thomas Francis Wade, 1867, 《語言自選集》  
 Crawford 1869, 高第丕、張儒珍, 1869, 《文學書官話》  
 J.S.McIlvaine, 1880, Grammatical Studies in the Colloquial Language of Northern China

<p><b>研究成果</b></p>	<p>引用文献は文末に〈引用文献〉として記入して下さい。</p> <p>17、18世紀の文法書において「量詞」は「数詞」のカテゴリーで説明されていたが、19世紀に入ると次第に「名詞」のカテゴリーで扱われるようになり、更には独立した一つの品詞として扱われるようになる。このような変化は西洋人の「量詞」に対する認識の変化を示すものであった。西洋人は初め「量詞」に対して、事物を数える時に用いる小辞:「助数詞」であるという認識を持っていたが、後に名詞について事物を分類する「類別詞」である、という認識を持つようになった。現代中国語文法研究においては、『新著国語文法』1924で初めて「量詞」が名詞の一種として取り上げられ、「量詞とは数量を表す名詞であり、数詞の後ろに加えられ、計量するところの事物の単位として用いられる」と説明され、その後『現代漢語語法講話』1961において品詞の<u>量詞</u>として分類されている。このように当時の西洋人は「量詞」に対して的確な考察を行っているが、資料には量詞のその他の機能についても言及されていることが分かった。</p> <p>まず、呂叔湘1944で述べられた「不定冠詞的用法」である。次に大河内1985で述べられた「量詞の個体化機能(抽象的な概念を個体化させる機能)」である。</p> <p>1. 不定冠詞的用法</p> <p>早期欧文資料では、中国語の「量詞」には上記で述べた「助数詞」や「類別詞」の機能があると説明する他に、「冠詞」の一部として説明される部分が見られる。ヨーロッパ言語にある冠詞の概念を中国語に当てはめた結果であろう。Lobscheid1864では品詞分類の一つとして「冠詞」を取り上げており、Lobscheidはこの部分において「量詞」の説明をする。他の著作は、数詞や名詞のカテゴリーの中で「量詞」を説明する際、冠詞的用法についても触れている。以下、その具体的な内容を整理すると次のようになる。</p> <p>① W.Lobscheid.1864. The Indefinite Article is expressed by the Numeral 一, and is always followed by the classifier applied to the respective Noun. It is seldom expressed in the literary style; but always in popular literature, and in conversation. (p18)</p> <p>② R.Morrison1815 But they occur not only when reckoning, but also when mentioning one of a thing: as, 'a ship,' is expressed by, 一隻船 (p37:8-13)</p> <p>③ Rumesat1822 一[un],suivi de la numérale kó form l'areicle indéfini quidam, un certain: 《Un hone.》 一個人 《Une chose.》 一箇件物 (p116:15-18)</p> <p>④ Guetzlaff1842 The indefinite article is, in highly finished literary works never expressed; in books written in the conversational style, and in common parlance it is conveyed (p24:31-33) ・ 一個、一箇、一个</p> <p>⑤ Edkins1857 Distinctive Numeral Particles. Where in English we use the indefinite article, the Chinese say 一, one, followed by a numeral (p121) 我看見一個老虎吃羊 I saw a tiger eating a goat.</p> <p>⑥ Gablantz1883 Das allgemeinste Numerativum ist 个, auch個 für Personen, und箇 für Sachen, geshureiben.Dies Wort kann auch den unbestimmten Artikel &lt;ein&gt; vertreten. (p92:27-29) 以上のように西洋言語にある冠詞の概念を中国語に当てはめ、定冠詞と不定冠詞を対比させる形で示し、不定冠詞に当たるものとして量詞を用いた以下の構造を示している。 一個(人)、個(人)／一箇(件物)、箇(件物)／一個、一箇、一个 一+量詞(+名詞)／个 「一個」の例が多く見られるが、「一」を省いた構造も同じように用いられ、また「個」だけでなく他の量詞も「一+量詞(+名詞)」の形で不定冠詞の働きを持つと説明される。更に、Thomas Francis Wade, 1867では「既知と未知」を用いて説明を行う。中国語には冠詞はないが、「既知と未知」をしらせる方法として「那」と「個、一个」を使い分けた例文を示している。</p> <p>2. 個体化機能</p> <p>Mcilvaine1880では中国語の「名詞」は「個性をはっきり示すというより対象の性質を示している」「中国語の一般名詞はその個体をはっきりと指摘するのではなくその性質を示す」ものであると説明し、そのため単数の数字「一」や個々の存在を示すことのできる種類の単語を付加する必要があり、それが量詞であるという。いわゆる量詞の個体化機能を明記していると言えるだろう。 It is necessary for the student to bear in mind that common nouns in Chinese as in English rather indicate the nature of an object that signalize its individuality. Hence the singular number as well as the plural must often be specially indicated.(p6:16) Since, as has been said, common nouns in Chinese ordinarily indicate the nature of an object, rather than signalize its individuality, it follows that there must be a class of words by the use of which individual subsistence can be indicated. (P8:3-6)</p>
<p><b>主な発表論文等</b></p>	<p>論文・学会・HP等の発表があれば、項目ごとに記入して下さい</p> <p>学会発表 ①「近代欧文資料に見る中国語の品詞分類について」 東アジア文化交渉学会第9回国際学術大会、2017年5月14日、中国、北京外国語大学 ②「早起西方汉语教材里的量詞功能」 世界漢語教育史研究會第九屆年會、2017年10月21日、中国、華東師範大学</p>